

荒川水系河川整備計画(素案)

河川整備の実施に関する事項(案)

～ 河川工事の目的、種類、施行の場所～

河川工事の目的、種類、施行の場所(案)

築堤、河道掘削及び水際環境の多様化

横川ダム建設

水衝部対策など堤防強化対策

河川砂州及び支川合流対策

桜つつみ整備等の環境整備

築堤、河道掘削及び水際環境の多様化

目的	種類	場所
洪水の安全な流下に必要な堤防断面の確保	築堤	・塩谷地区 ・旭橋 ・下川口地区
・洪水時の水位低下 ・水際環境の多様化 (河道掘削に合わせて実施)	河道掘削 (樹木伐採)	・海老江地区 ・貝附地区 ・雲母地区

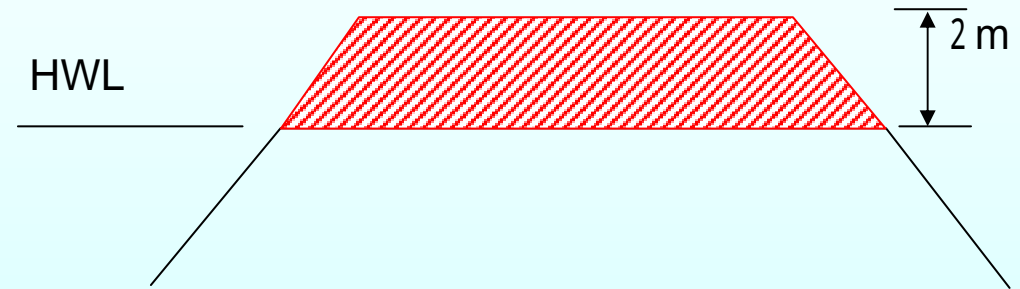
- ・ワンド部については、極力掘削を避ける。
- ・堤防付近を掘削する場合には、護岸を設置する。
- ・人為的な環境とならないよう、自然にまかせた回復が期待できる工法をとる。

築堤 (塩谷地区)

洪水を安全に流下させるために必要な堤防断面が不足している区間について、築堤を実施する。

なお、支川堀川の逆流対策計画の検討結果により、築堤範囲が変わる場合がある。

築堤イメージ図



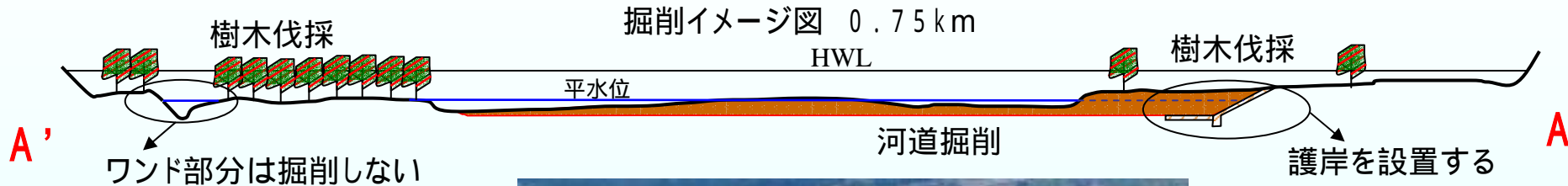
築堤位置図



築堤位置写真

河道掘削(海老江地区)

- ・洪水時の水位を低下させるため、樹木伐採及び河道掘削を実施する。
- ・右岸については、堤防の安全性を確保するため、護岸を設置する。



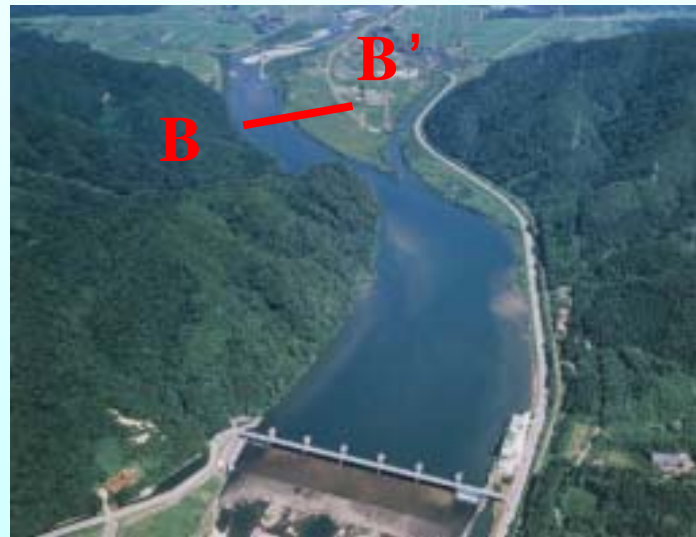
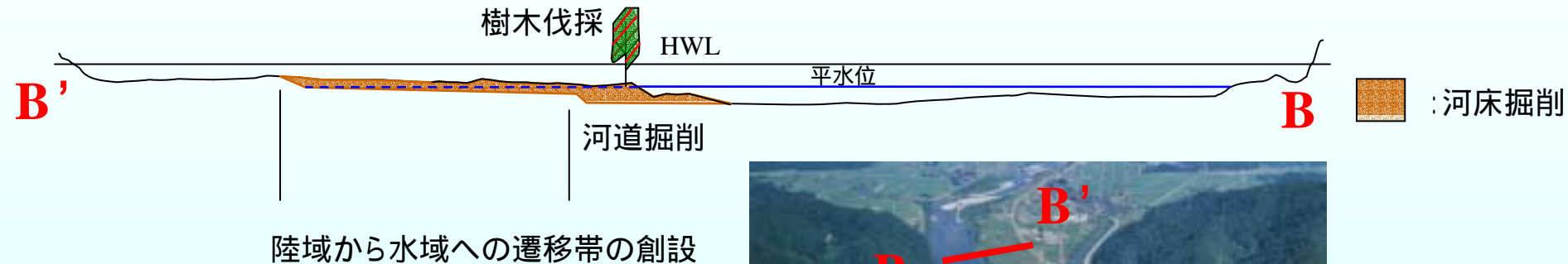
工事施工上の留意事項

- ・多様性の高い環境を有するワンド部分は極力掘削を行わない。
- ・鳥類、魚類の生育に配慮して、施工時期、施工方法を検討する。
- ・特定種については、その保全について十分な配慮を行う。

河道掘削(貝附地区)

- ・洪水時の水位を低下させるため、河道掘削、樹木伐採を実施するとともに、水際環境の多様性を向上させる。

掘削イメージ図 10 km



工事施工上の留意事項

- ・鳥類、魚類等への影響を最小限におさえるため、営巣、産卵期等の工事を避ける。
- ・特定種等の植物の保全に十分な配慮を行う。

横川ダム建設



横川ダムの役割

1. 洪水調節
2. 「既得取水の安定化」
「河川環境の保全」
のための流量の確保
3. 工業用水の供給
4. 水力発電



ダム本体の諸元

形式	重力式コンクリートダム
堤高	72.5 m
堤頂長	280.0 m
堤体積	約25 万m ³
貯水池の諸元	
集水面積	113.1 Km ²
湛水面積	1.55 Km ²
総貯水容量	2,460 万m ³
有効貯水容量	1,910 万m ³

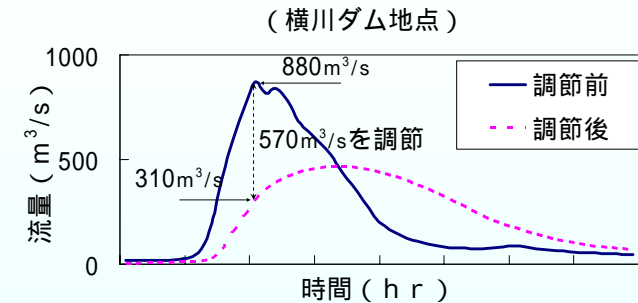
横川ダム役割

1. 洪水調節

既に完成している大石ダムとともに、梅雨前線や台風などの大雨によって起こる洪水から流域町村を守る。

横川ダムの洪水調節は、ダム地点流入量 $880\text{m}^3/\text{s}$ のうち、最大 $570\text{m}^3/\text{s}$ をダムによって貯め込み、洪水流量の低減を図る。

洪水調節イメージ図



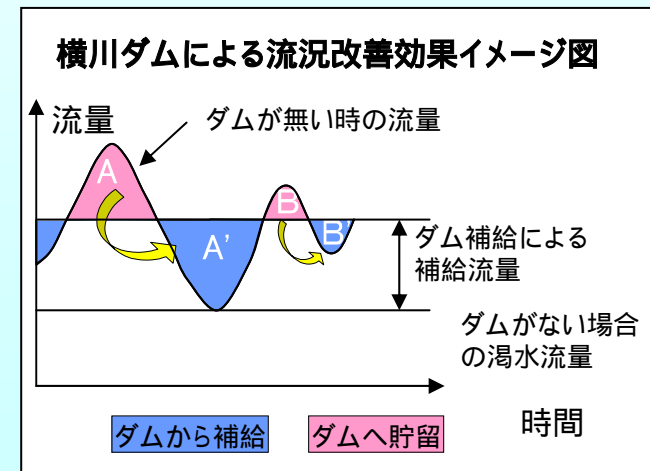
2. 「既得取水の安定化」「河川環境の保全」のための流量の確保

横川ダムから、安定した水供給を行い、飲料水や農業用水、工業用水などを渇水時においても確保する。

また、川が本来持っている美しい景観や良好な水質を保ち、河川生態系を維持する。

3. 工業用水の供給

小国町の工業用水として、1日あたり約 $7,000\text{m}^3$ の新たな取水を可能にする。



横川ダム建設の環境対策

横川ダム建設事業の工事並びに新たな貯水池により、環境に与える影響を少なくするため環境対策を講ずる。

横川ダム
実施事例



ビオトープ整備



ビオトープを活用した環境学習



トンネル発破作業防音壁



事業箇所の環境巡視



付替道路のエコロード対策

水衝部対策など堤防強化対策

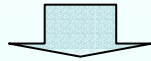
目的	種類	主な場所
局所洗掘からの堤防保護	水衝部対策 (護岸工、水制工など)	・荒川縁新田地区 ・葛籠山地区 ・荒島地区 ・大島地区 ・雲母地区等
浸透等に対する堤防強化	堤防強化 (矢板工、ドレーン工など)	・全川
扇頂部での堤防等強化	堤防等強化 (護岸設置範囲の拡大、高水敷強化、側帯整備など)	・葛籠山地区 ・荒島地区 ・雲母地区等

- ・局所洗掘の進行状況は、洪水毎に変化するため、点検により危険性が確認された場合に実施する。
- ・浸透等に対する堤防強化は、浸透等に対し、十分な安定性が確保できないことが確認された場所で実施する。
- ・扇頂部での堤防等強化は、今後、工法を検討の上、実施する。

水衝部対策(雲母地区)

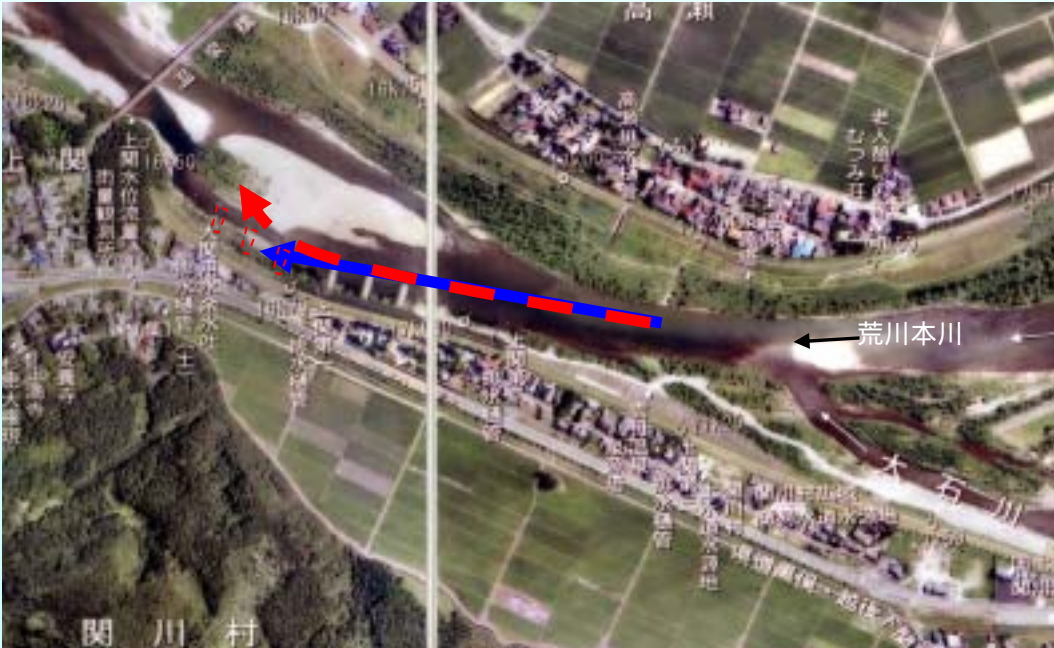
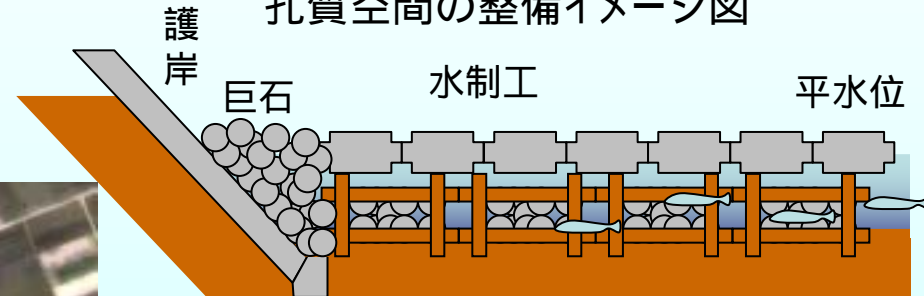
- 洪水の流向を河川の中心に向け、堤防付近の局所洗堀を防止する水衝部対策(水制工)を実施する。

荒川本川の流水が、温泉橋上流で左岸堤防に向かって偏流しており、堤防付近が局所洗堀を受けている



水衝部に水制工を設置し、洪水の流向を河川の中心に寄せ、堤防付近の局所洗堀を防ぐ

魚巢や洪水時の避難場所となる多孔質空間の整備イメージ図



H13年度に設置した水制工の状況

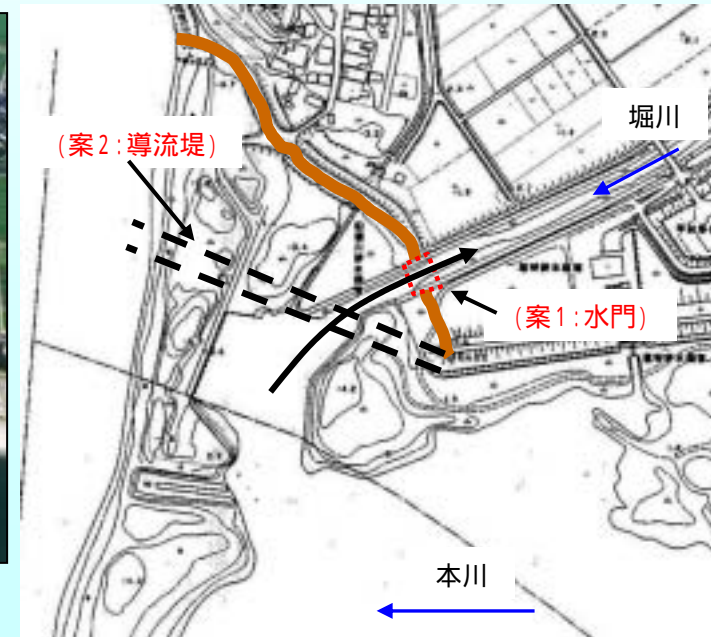
河口砂州及び支川合流点对策

- 河口砂州の動態モニタリングを継続的に実施し、河口砂州の固定化による洪水の流下阻害を防止するため、河口対策を実施するとともに洪水流の支川堀川への逆流を防止するため、合流点对策を実施する。
- 具体の工法等詳細については、今後、調査検討の上、実施する。

逆流防止のイメージ



平成13年7月撮影

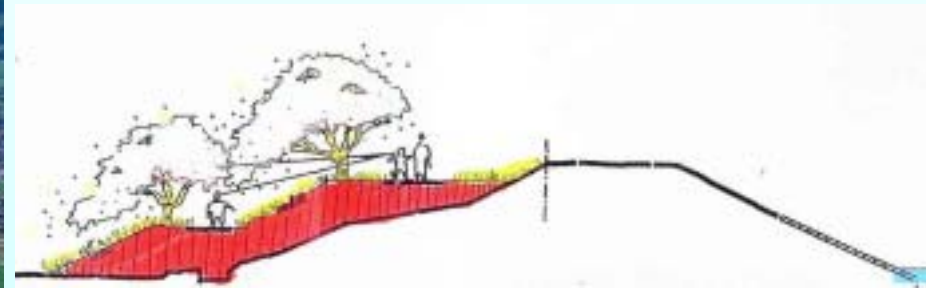


桜づつみ整備等の環境整備

- 堤防の強化、水防活動に必要な資材の備蓄とともに、地域の交流空間として荒川町鳥屋地区に桜づつみ(H15. 3.31モデル事業認定)を整備する。
- 昭和62年に沿川3町村の住民が「荒川筋桜の会」を結成し、「荒川沿川桜1万本構想」を提案している。
- 盛土形状、植栽等については、今後、地元自治体や周辺住民の意見を聴きつつ決定する。
- 既設の親水施設についても、利便性等を調査の上、地元自治体等と連携し、バリアフリー化等を実施する。



荒川町鳥屋地先 L = 1.3 km



桜づつみイメージパス(案)

河川整備の実施(案)位置図

